



社長室だより

～社訓*誠意～



2017年11月末号

私には今年の10月20日に91歳になった父と、来年1月6日に91歳になる母がいる。

二人とも真面目で、日曜日以外、毎日父は会社に。母はデイサービスに通っている。会社の代表と業界のリーダーとして一時代を築いてきた人とそれを支え続けてきた二人は己のよりどころの意味も有り非常に信仰心が厚く、母は毎月1日参りを欠かさず、父も毎朝会社の廻りや御不動様のお参りを欠かさなかった。しかし、母は1年前に心不全で生死の境をさまよう事態に。父も今年の1月に入院手術をして以来急激に体力も衰え、二人とも自力、単独での参拝が出来なくなっていた。私も幼い頃より一緒にお参りに出かけた事も有るし、やはり会社経営を任せられ全ての最終責任を取る身になると己の信念を貫く覚悟と願い、そして心を整える為にも、又、従業員とその家族の無病息災を願い、己の責任を肝に銘じる為に手を合わせている。そんな父母を私事を優先して連れて行ってあげられなかった深川の御不動様にやっと11月23日勤労感謝の日に連れて行くことが出来た日の事。午前中は大雨で、行くのを止めようかと思っただが、朝から身支度をして私の出発を待ちかまえているので予定通り出発した。祭日参りと七五三参り、そして外国人の観光客で館内は賑わっていた12時の祈祷の大太鼓の音が心にも響き、無心に合掌できる。坊様が最後にこんな話をしてくれた。「御不動様がどうしてもこのように怖い顔をしているか。それは何事も懸命に自分の願い事に対し具体的に動き、努力をなささい。と諭しているお姿なのです。そうして努力をした方に救いの手を差し伸べて下さるのが御不動さまです。とにかく具体的に動いてみる。そこから成功も失敗も有るがそれを肥やしに又前に進む事をいとわなければ、願いは必ず実現する。」私はその言葉を正に信じ続けて今日まで来ました。そして、これからもそうあるべきだと改めて肝に命じた1日でした。親孝行のつもりのお参りが自分の為のお参りにもなりました。帰り際に父が毎月供養を自分の入院で途切れたが、どうしたものかと社務所に問合せに寄ると父の名前を伝えただけで「先輩からお名前を聞いております。わざわざありがとうございます。よくおいで下さいました。調べてお電話します。こちらお菓子ですがお持ち帰りください。と丁寧な対応とお土産まで頂く。母が階段を下りて境内を歩き始めると出店から一人の女性が走り寄ってきて母に抱きついてきた。「どうしてらしたかと！」1年以上母の事覚えていてくれて、案じて下さった。「お元気になられて良かった、これ海苔なんですけど受取ってください」と。ここでもお土産を頂いてしまった。「お名前が入った灯籠はちゃんとあがってますよ！」二人の信仰心と人柄をこんな温かな光景で私に見せてくれた。私の方が感極まった。(決して商買だけでは出来ない行為だと)人と人との交わり、一期一会。いつまでも大切にしていきたい。しかし自分は父母のように生きられるだろうか。ちょっとセンチメンタルになった1日でした。

本格的な寒さがやってきますが心の中は温かく有りたいですね。闘志は面々と燃やしているので、今年も風邪で寝込むことはないかな～！！

さあ～ 12月年末がやってくる 戦闘モードに切り替えよう。